

# 監修のことば

“人生100年時代”を迎え、いよいよ咬合が注目されています。歯科だけが行える咬合治療は、咀嚼、嚥下、呼吸、発音、感覚、審美、姿勢維持、身体運動など、顎口腔系のさまざまな機能を維持しています。また、フレイルやサルコペニア、ロコモティブシンドロームの予防、前頭前野や海馬をはじめとする脳機能の活性化による認知症予防効果、さらに生きることへの意欲の回復、精神・心理状態の改善にまで影響を及ぼしています。このように、咬合治療は日々の生活の質を大きく左右し、健康寿命や人生の満足度の観点からも極めて重要な役割を果たしています。

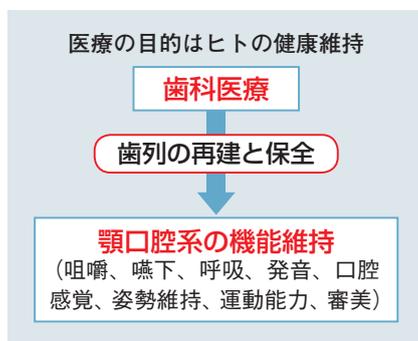
私たち歯科医療者は、咬合治療が果たす役割の大きさを十分に認識しておく必要があります。国民を支える実際の咬合治療にあたっては、経年変化に対応して顎関節と筋の診断を的確に行い、顎口腔系の調和を維持できるよう治療内容の更なる高度化が強く求められており、そこでは大きな生きがいを実感できます。

本書は、2010年に多くの若手歯科医師の方々から「咬合と顎関節の診断と治療の基準をわかりやすく示してほしい」との要望が寄せられ、2012年に「顎関節と咬合に強くなるう——毎日の臨床が楽しくなる」という1年間12回の月刊デンタルダイヤモンドの連載で、日常臨床に不可欠な重要事項をできるだけわかりやすく執筆しました。これが2014年2月には1冊の書籍になり、海外でも翻訳されて広く参考にしていただきましたが、この度デンタルダイヤモンド社の安齋清幸氏のご尽力のお陰で、新たな知見を大幅に加えた改訂版を上梓させていただきました。

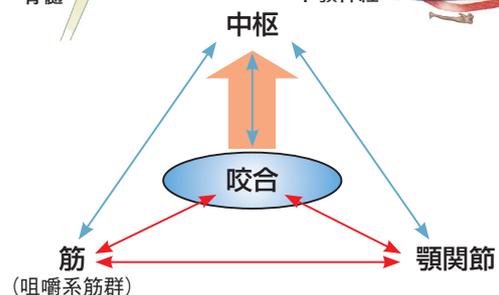
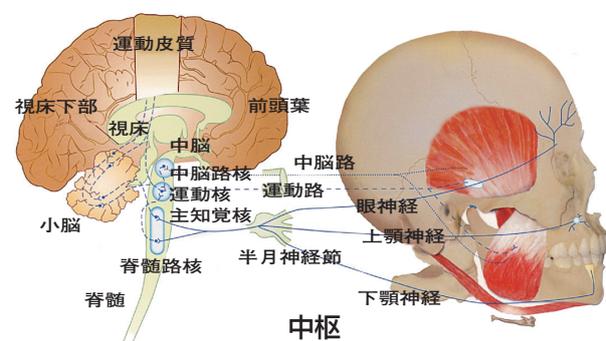
一般に「咬合と顎関節は難解だ」というイメージが強くありますが、私たち歯科医師、歯科技工士、歯科衛生士が日々の臨床でおさえておくべき重要事項を、なるべく臨床に即して具体的に、更にわかりやすくお示しました。先生方の明日からの臨床に生かしていただきたいと願っています。

2019年2月

小出 馨



図① 歯科医療は日々の生活の質を左右し、心身の健康に、更には人生の満足度にまで影響を及ぼす



図② 顎口腔系は、筋と顎関節と咬合、そしてこれらを統御する中枢で構成される (河村洋二郎の図 [1996年] を改変)